



— 巻頭言 —

“大人の役割・大人の責任”

園長 高杉 洋史



なしの花です。  
今年は桜と同時に咲きました。

お正月もいよいよけれど、サクラの花やチューリップの花にかこまれて始まる新しい学年のスタートは心が高鳴ります。大学では国際化の流れに合わせて9月入学の話が議論されていますが、幼稚園の新学期、新学年のスタートはサクラの花とともに始まると気持ちがうきうきします。

赤ちゃんが「マーマー」と話し始めると父親でもうれしいのですからお母さんの喜びはひとしおでしょう。そして赤ちゃんは次第に自分と他人の区別がつくようになり心が形成されはじめるのですが、一番最初は、母親を見、母親の心を自分の中にコピーしながら育っていくのだそうです。その後、成長するにつれてさまざまな人と接し、新しいコピーをどんどん取り入れながら心が育ちます。ということ、ご両親やご家族とともに、幼稚園教諭の心も、子どもたちの心の成長に大きく影響することに重い責任を感じています。特に「良心」は心理学の世界では超自我といわれ、子どもたちが大人になるための大切なものだけに、幼稚園教諭一人ひとりが毎日自分の心の健康に気を付け、心のよごれはないか掃除をして、いつ子どもたちにコピーされても大丈夫なように心がけます。幸い、多くの方からゆりの樹幼稚園の先生はいつも明るいねと言ってもらっているので、明るさをプラスして、高いレベルの愛の特徴としてあげられる四つの基本要素である、配慮、尊敬、責任、

理解にも心を配ります。子どもたちの成長を気にかけて、その子らしく成長してゆくように気づかい、子どもたちの成長したいという伸びる力にこたえる用意をし、子どもたちを見守り理解する、そんな先生・幼稚園でありたいと思っています。幼稚園の先生も人間ですから時にはしょんぼりしているときもあるかもしれませんが、そんな時みなさんから「子どもが見ているよ」とやさしく声をかけていただくと元気が出ます。よろしくお願ひ致します。

